

港湾ロジスティクスWG資料

令和8年1月
一般社団法人 港湾荷役システム協会

1. 港湾ロジスティクスに対する基本認識

- ・港湾ロジスティクスは四面環海の日本における生命線であり、我が国の経済安全保障の根幹。よって、他国に依存しない自律的なネットワークを構築する必要。
- ・このためには、港湾ロジスティクスにおける生産性の向上と、他国からの脅威に対抗するセキュリティ対策の充実が不可欠。
- ・海外では、港湾ロジスティクス分野における技術革新が加速度的に進展し、コンテナターミナルの荷役システムの自動化・遠隔操作化、脱炭素化はグローバルスタンダード。こうした機能がない港湾は、世界の海運基幹ネットワークから取り残される恐れ。
- ・当協会としては、国産技術による港湾荷役システムの高度化を通じて、港湾ロジスティクスの強化、ひいては我が国の経済安全保障に貢献していく所存。

2. 海外の動向

■世界のコンテナ取扱量上位20港における自動化導入状況

順位 (2023年)	港名	コンテナ 取扱量 (万TEU)	自動化 導入 状況
1位	上海(中国)	4,916	○
2位	シンガポール	3,901	○
3位	寧波-舟山(中国)	3,530	○
4位	深圳(中国)	2,988	○
5位	青島(中国)	2,877	○
6位	広州(中国)	2,541	○
7位	釜山(韓国)	2,304	○
8位	天津(中国)	2,219	○
9位	ドバイ(UAE)	1,447	○
10位	香港(中国)	1,440	○
11位	ポートケラン(マレーシア)	1,406	×
12位	ロッテルダム(オランダ)	1,345	○
13位	厦門(中国)	1,255	○
14位	アントワープ(ベルギー)	1,250	○
15位	タンジュンペレパス(マレーシア)	1,048	×
16位	レムチャバン(タイ)	887	○
17位	高雄(台湾)	883	○
18位	ロサンゼルス(アメリカ)	864	○
19位	タンジェMED(モロッコ)	861	○
20位	太倉(中国)	804	—

出典: 国土交通省港湾局資料

■遠隔操作(自動化)ガントリークレーンの導入事例 (オランダ・ロッテルダム港)



■遠隔操作室の例(シンガポール港)



3. 今後に向けて（政府への期待）

- ・我が国の荷役機械産業は世界に通じる技術力を有しており、その競争力強化は、国産技術による港湾ロジスティクスの強化、ひいては我が国の経済安全保障を実現する上で重要な課題。
- ・世界の荷役機械・システムのマーケットが拡大する中、我が国の荷役機械産業の優位性を維持し、世界の港湾ロジスティクスをリードしていくため、国が先頭に立って取組の後押しをお願いしたい。

【マーケットの拡大を踏まえた取組】

- 荷役機械の生産基盤の強化（岸壁、背後ヤード、クレーン運搬船など）
- 自動化等の新技術の実証・導入（実績の確保）
- 日米協力やODAなどと連動した国産荷役機械・システムの海外展開
- ISO（国際標準化機構）における港湾ターミナル分野の標準化の動きへの対応（海外の特定メーカーの技術に偏らない対応）
- 荷役機械・システムのサイバーセキュリティ対策の強化（国による認証の仕組みの導入など）